

NPO ファイナンス（5）

シビル NPO に対する助成金適用

CNCP 理事 三上 靖彦

NPO 法人茨城の暮らしと景観を考える会代表理事



平成 15 年に NPO 茨城の暮らしと景観を考える会を立ち上げて以来、私たちは市民主体の事業展開を進めるうえで、総額4億円以上の助成金を頂戴している。これまでの経緯をお伝えしながら、私たちシビル NPO における助成金適用（ゲット）のポイントを考えたい。

(1) まちづくりの現場の事情

時代は共助型社会（新しい公共）へ大きくシフトしている。基本は民主導で、まずは民が動くこと。行政は支援者（サポート役）である。しかし、バブルが崩壊した平成以降、相変わらず行政主導のまちづくりばかりで、また主体者たる市民の意識もまだまだ低いのが現状である。

そして、画一的で「より多く」「より大きく」「より新しく」にのみ価値観を見出す、個性のないまちづくりが増加し、結果、地方は見事に衰退、消滅可能性が指摘されている。

まちづくりのコンサルタントとして、行政と共に地域づくりに関わってきた立場から、また、私自身、NPO を設立する前には、地元の青年会議所で政策を担当し、純粋に民間の立場から政策を実現するための組織の立ち上げ方、事業の組み立て方などを学び、実践してきたことから、行政頼みでは地域は崩壊することを予感した。

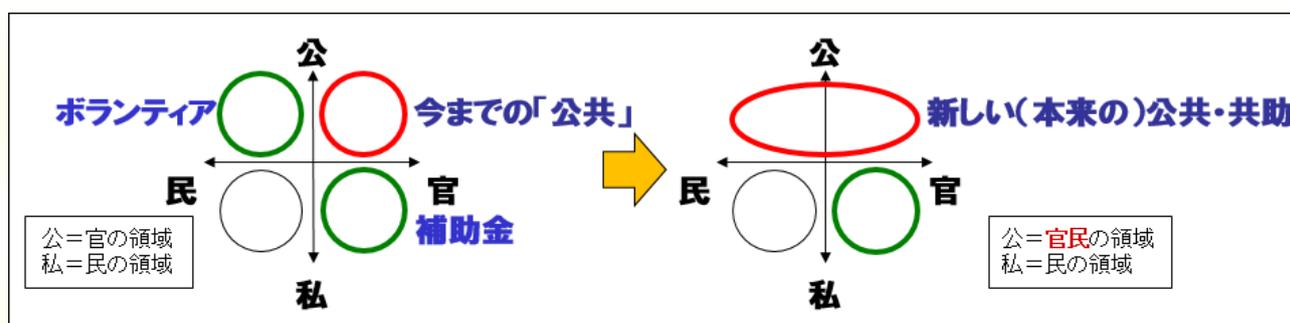


図 - 1 新しい公共（共助型社会）によるまちづくり

(2) 当事者としての主体的実績づくり

私たちが市民主体のまちづくり NPO を設立したのは、上記のような背景を踏まえ「今までのやり方を変えよう」と考えたからだ。民の立場で、当事者（自分事）意識を持った事業展開、当事者として腹を括り「自分事」として地域を考える必要性、パブリックマインドとプライベートマインドを併せ持った、市民主体の官民連携による事業展開を目指した。具体的には、地元・水戸の中心市街地をフィールドにした「街なか再生」「景観づくり」などに関するワークショップ、まち歩き、講演会、シンポジウムなどを開催することから実績づくりを始めた。

(3) 活動資金・助成金の獲得

多くの NPO は「専門性」「人脈」「認知度」「実績」等の不足に悩まされている。それはまさに「活動資金」の不足に直結する。これらは相互に関連し、この5つが揃って始めて1人前の NPO だ。それを、組織の力として蓄えられていないと、継続的事业展開は不可能である。

私たちの場合、「専門性」つまりは事業企画、事業運営等については、私自身のコンサルタントとしてのスキル、青年会議所で培ったノウハウ、さらにはメンバーの有する専門性で充分であった（そもそも、専門性のあるスタッフを仲間に行っている）。活動の質を高めたり行政との関係性を構築するための「人脈」についても同様だ。

組織の社会的「認知度」を高めるために、私たちは名称に工夫を凝らしている。正式名称「特定非営利活動法人茨城の暮らしと景観を考える会」は組織のミッションそのものを伝えるもので、このお堅い雰囲気は行政受けする。一方で高校生や主婦たち、一般市民から受けの良い愛称を設立当初から設けている。「WILL」。単純な当て字 W (WE) I (Ibaraki) L (Life) L (Landscape) である。これは効果的であった。また広く宣伝す

る手法として、各種メディアとの連携には気を遣った。地域デジタル放送の準備中でたくさんのコンテンツを求めていた NHK 水戸放送局との出会いは、コンテンツはあっても宣伝手法のなかった私たちにとって幸運だった。

そして、事業に必要な「活動資金」であるが、「専門性」「人脈」「認知度」「実績」をきちんとアピールできる企画提案書が書ければ、活動資金をゲット出来る可能性は極めて高い、と考える良いと思うし、以上の経営資源をフルに活用すれば、社会の課題に対し効果のある、評判の高い実績を作ることは、ある意味簡単だ。

(4)立場を強化すること

さて、行政との連携は、活動資金を得るためのみならず、活動の幅を広げたり、活動に対する公共性を高めたり等、様々な効果がある。私の場合、本業と NPO 活動、また地元の商工会議所活動を通し、公的機関の委員をいくつも委嘱されていて、これらが私たちの NPO と地元の行政との連携を容易にする潤滑剤になっている。行政との連携を促進する方法の一つとして、自身の社会的立場を強化することが大切だ。

地域の中で、日常的に官民間わずに連携して事業を展開していると、助成金をゲットしたい時のみならず、いざという時に協力してくれる。

(5)助成金の種類

提供される活動資金の種類は様々である。例えば、

- ①助成金へのアプローチ：申請型と競争型や、公募型と指名型。
- ②提供団体：官公庁や公的団体、民間団体など。
- ③対象事業：調査研究、事業プロジェクト、組織運営支援、施設設備等。

これらについては、日本財団の提供する包括的助成金紹介サイト「CANPAN」は非常に参考になる。

The screenshot shows the CANPAN website interface. On the left is a search sidebar with filters for '募集ステータス' (Collection Status), '助成制度名' (Grant Name), '実施団体名' (Implementing Organization), and '対象事業' (Target Activities). The main area is titled '助成制度 / 助成制度一覧' (Grant Programs / Grant Program List) and contains a table of grant programs.

概要	募集ステータス・募集時期
助成制度名 平成29年度対象事業 つなぐいのち基金助成金（つなぐ助成） 実施団体 つなぐいのち基金 対象事業 調査・研究、事業プロジェクト、組織運営支援、その他	募集予定 2017年2月1日～2017年2月25日 2017年1月24日 17:34更新
助成制度名 中央共同募金会「赤い羽根福祉基金」助成 実施団体 社会福祉法人中央共同募金会 対象事業 調査・研究、事業プロジェクト	募集中 2017年1月18日～2017年2月13日 2017年1月23日 15:59更新
助成制度名 現地NPO応援基金【特定助成】「東日本大震災復興支援JT NPO応援プロジェクト」(第2期) 第2回助成 実施団体 (特) 日本NPOセンター/日本たばこ産業株式会社 対象事業 事業プロジェクト	募集予定 2017年2月14日～2017年2月28日 2017年1月23日 15:53更新
助成制度名 熊本地震 支援金「ボラサポ・九州」第3次 実施団体 社会福祉法人中央共同募金会 対象事業 事業プロジェクト、その他	募集中 2017年1月16日～2017年1月26日 2017年1月23日 15:46更新
助成制度名 助成事業（国土の利用、整備、保全 及び防災に関する事業）	募集中 2017年1月5日～2017年2月13日

図 - 2 包括的助成金紹介サイト「CANPAN」 (<http://fields.canpan.info/grant/>)

(6)助成金をゲットする

多くの NPO は、助成金の制度に合わせて、やや無理矢理事業を組み立て申請するが、それでうまくいかない。私たちの場合は、まず、本気でやりたい事業をイメージする。次いで、様々な制度の中から、私たちのやりたい事業にマッチする制度を選ぶ。そして、マッチする制度に申請・エントリーする。結果として資金ゲットし、効果的な事業を実施する。

(7)最後に

この記事の執筆にあたって「計画された偶発性理論 (Planned Happenstance Theory)」 (個人のキャリア形成は予期せぬ偶発的な出来事に大きく影響されるものであり、その偶然に対して最善を尽くし、より積極的な対応を積み重ねることによって、ステップアップできるという考え方) を思い出した。